

「ジェネる AI」の衝撃

～定額減税を事例に検証。ポスト「ググる」時代に求められる新たなスキルとは？～

ライフデザイン研究部 主席研究員/テクノロジーリサーチャー 柏村 祐

1.検索エンジンの課題

インターネットを通じて膨大な情報が手に入る現代社会において、検索エンジンは私たちの生活に欠かせない存在となっている。しかし、検索エンジンを使って目的の情報を探す過程は、時としてストレスを伴うものである。検索結果として表示されたリンクをクリックし、実際のページを確認しなければ、求める情報が含まれているかどうかわからない。1つ1つのリンクを開いて中身を確認するのは面倒で、時間がかかる作業だ。また、検索結果に表示されるページの情報は玉石混交であり、信頼できるソースなのか判断が難しい。こうした状況に直面すると、検索エンジンを使って情報を探すことを躊躇してしまう。

そのようななか、近年、AIの急速な発展により、従来の検索エンジンとは一線を画す新しいタイプの検索ツールが登場した。この革新的なAIは、ユーザーの質問を理解し、関連する情報を収集・分析して、簡潔で的確な回答を生成する。リンクをクリックして情報を探す必要がなく、信頼できる情報ソースから最適な回答を即座に得ることができる。つまり、「ググる」時代から新たな検索の時代へと移行しつつあるといえる。

そこで本レポートでは、この新しいタイプの検索AIを「ジェネる AI」と名付け、その実力を詳しく検証していく。「ジェネる」という言葉には、AIが情報を生成（ジェネレート）するという意味を込めている。この「ジェネる AI」の登場は、私たちの情報検索のあり方に大きな変革をもたらすかもしれない。そこで、本レポートでは、この「ジェネる AI」の実力を詳しく検証していく。

2.ジェネるAIの能力

「ジェネるAI」は従来の検索エンジンとは異なり、ユーザーの質問に対して直接的な回答を提示するという革新的な機能を備えている。このAIの能力は、概要検索、深堀検索、関連検索の3つのカテゴリーに分類することができる。概要検索では、ユーザーが入力した質問にもとづいて、AIがインターネット上の関連する情報を収集し、それをわかりやすく要約して簡潔な回答を提供する。このプロセスは、日常的な情報検索を劇的に速く簡単にすることが可能である。深堀検索では、ユーザーの質問をより深く理解し、詳細な情報を提供することが可能だ。関連検索では、ユーザーの質問

に直接答えるだけでなく、関連するトピックや追加の情報も提示される。これらの能力を組み合わせることで、「ジェネAI」はユーザーの多様な情報ニーズに対応できるのである。

それでは、実際にこれらの検索能力がどのように機能するのか、具体的な例を交えてみていこう。事例としては多くの国民が関心のある所得税・住民税の定額減税について取り上げる。

まず、概要検索について、AIに「所得税・住民税の定額減税とは？」と入力した。その結果、AIは「所得税・住民税の定額減税とは、令和6年度税制改正に伴い、2024年分の所得税・住民税の徴収額から定額が控除されることを言います」という概要を記載のうえ、図表1のように対象者の要件や算出方法について詳細な説明結果を作成した。作成された結果の引用元も明示されるため、信頼のおける情報ソースなのかもシームレスに確認できる（図表1赤枠）。

図表1 所得税・住民税の定額減税の概要

※ 回答

所得税・住民税の定額減税とは、令和6年度税制改正に伴い、2024年分の所得税・住民税の徴収額から定額が控除されることを言います。主なポイントは以下の通りです。

1. 対象者は、所得税に係る合計所得金額が1,805万円以下（給与収入のみの場合は2,000万円以下）の人 **5 8。**
2. 減税額は、納税者及び同一生計配偶者又は扶養親族1人につき所得税3万円、住民税1万円のあわせて4万円。家族4人世帯の場合は合計16万円が減税される **5 8。**
3. 所得税の減税は、2024年6月より給与支払い時の源泉徴収税額から控除される。6月に控除しきれない場合は翌月以降に繰り越す **4 5。**
4. 住民税の減税は、6月分は徴収されず、7月分から2025年5月分までの11か月間で均等に割り振って徴収される **4 5。**
5. この措置は、物価高で負担が増えている国民を支援するための一時的なものである **5 8。**

政府は、この定額減税と賃上げにより、家計の可処分所得の増加を期待しています **5。** 詳細な対象者の要件や算出方法については、国税庁のホームページ等で確認することができます **5 9 10 11。**

資料: perplexity より筆者作成

次に、深掘り検索について確認してみよう。概要検索で出力された結果の中で、さらに深掘りしたい内容があれば、それをAIに質問すればよい。ここではAIに「所得税・住民税の定額減税の狙いは？」と入力した。その結果、AIは「所得税・住民税の定額減税の主な狙いは以下の通りです」と回答したうえで、物価高騰下での家計支援、デフレ脱却に向けた消費喚起、幅広い世帯への恩恵、即効性のある経済対策という4つの項目を回答した（図表2）。

図表 2 所得税・住民税の定額減税の主な狙い

※ 回答

所得税・住民税の定額減税の主な狙いは以下の通りです。

1. 物価高騰下での家計支援
賃金上昇が物価高に追いついていない状況で、国民の可処分所得を直接的に下支えし、負担を緩和することが目的とされています^{1 5 16}。
2. デフレ脱却に向けた消費喚起
定額減税により家計の購買力を高め、消費を喚起することで、デフレからの完全脱却を目指しています^{5 17}。政府は定額減税と賃上げにより、2024年の所得増加率が物価上昇率を上回ると見込んでいます^{5 10}。
3. 幅広い世帯への恩恵
定額減税は所得制限があるものの、約9000万人が対象となる見込みです¹²。低所得世帯には別途給付金を支給することで、様々な所得層の可処分所得を増やす狙いがあります^{5 17}。
4. 即効性のある経済対策
減税は給付と比べて実施までに時間を要しますが、個人の可処分所得を直接的に増やす効果が期待できます^{12 16}。

政府は、定額減税を通じて物価高の影響を受けている家計を支援しつつ、消費喚起によるデフレ脱却を図ろうとしていると言えます。ただし、効果の持続性などを巡っては議論もあります^{10 12}。

資料: perplexity より筆者作成

さらに、関連検索では、AIが回答した内容の最後尾に、「所得税・住民税の定額減税の狙いは？」に関連する質問が自動で表示された（図表3）。ユーザーがさらに関連した検索を行いたい場合、AIが推薦した関連質問の中から興味のある質問を選択すればよい。ここでは、提示された3つの質問の中にある「定額減税が適用される所得層はどのように決まりますか？」について回答を求めてみた。

図表 3 関連質問の例

🔗 関連	
定額減税が適用される所得層はどのように決まりますか？	+
定額減税が適用される住民税の徴収額はどのように決まりますか？	+
定額減税が適用される期間は何年間ですか？	+

資料: perplexity より筆者作成

その結果、AIは「定額減税の適用対象となる所得層は、所得税と住民税で判定基準の年度が異なります」と回答したうえで、定額減税の適用対象となる所得層についての詳細な情報をわかりやすく提示した（図表 4）。

図表 4 定額減税の適用対象となる所得層

📌 回答	
定額減税の適用対象となる所得層は、所得税と住民税で判定基準の年度が異なります。	
所得税の場合、定額減税の適用対象は令和6年（2024年）分の合計所得金額が1,805万円以下の人です。給与所得のみの場合は、年収2,000万円以下が目安となります 1 2 4 5 8 10 。	
一方、住民税の場合は、令和5年（2023年）分の合計所得金額が1,805万円以下の人定額減税の対象となります 1 2 5 10 15 。	
つまり、所得税は減税が適用される年（令和6年）の所得で判定しますが、住民税は前年（令和5年）の所得で判定するという違いがあります。	
また、合計所得金額が1,805万円を超える高所得層は、所得税・住民税ともに定額減税の対象外となります 2 4 5 8 17 。政府・与党は、年収2,000万円を基準に富裕層を対象外とする方針を固めています 17 。	
このように、定額減税は中低所得層に手厚く適用される一方で、高所得層は適用対象から除外されることになります。物価高騰で特に打撃を受けている層を支援する狙いがあると考えられます 9 11 16 。	

資料: perplexity より筆者作成

以上の事例から、「ジェネAI」は単一の質問に対し要点を簡潔にまとめた回答を提示できるだけでなく、ユーザーの関心に合わせて関連トピックへと掘り下げていくことができる。特に、複数の信頼できる情報ソースが明示され、ワンクリックで参照できる点は画期的だ。これにより、ユーザーは回答の信頼性を容易に確認でき、さらなる情報収集も簡単に行える。従来の検索エンジンでは、検索結果のリンクを1つ1つクリックして情報を探し、ソースの信頼性を自分で判断する必要があったが、「ジェネAI」ではそのプロセスが大幅に簡略化されている。つまり、「ジェネAI」は単なる検索ツールの枠を超え、リサーチやファクトチェックを強力にサポートするアシスタントとしての役割を果たすのである。

3.「ジェネAI」と協働する時代に求められる新たなスキル

「ジェネAI」の登場により、私たちは「ググる」時代から「ジェネる」時代へと移行しつつある。この変化は、単なる検索方法の変化にとどまらず、私たちの情報収集や問題解決のあり方そのものを大きく変えていくだろう。「ジェネAI」を効果的に活用するには、従来の検索エンジンとは異なる新たなスキルが求められる。図表5は、「ググる」時代と「ジェネる」時代に求められる能力の違いを示したものである。

図表5 「ググる」時代と「ジェネる」時代に求められる能力の比較

能力	「ググる」時代	「ジェネる」時代
情報収集	適切なキーワードを選択し、検索結果から必要な情報を見つけ出す	AIに的確な質問を投げかけ、回答を引き出す
情報の解釈	検索結果の内容を理解し、信頼性を判断する	AIの回答を批判的に吟味し、自分なりの解釈を加える
問題解決	検索結果を基に、自分で解決策を考える	AIとの協働を通じて、新たな知見を生み出す
創造性	検索結果を参考に、独自のアイデアを生み出す	AIの提案を基に、人間の感性や経験を活かして創造する

資料:筆者作成

まず、AIに的確な質問を投げかけ、必要な情報を引き出す能力が重要になる。「ジェネAI」は、ユーザーの質問の意図を理解し適切な回答を生成するが、質問の仕方によって、得られる情報の質や量が大きく異なる。したがって、自分の知りたいことを明確に言語化し、AIに伝えることが求められる。

次に、AIから得られた回答を批判的に吟味し、自分なりの解釈を加える能力も必要だ。「ジェネAI」は膨大な情報から最適な回答を提示するが、常に完璧とは限らない。時には不正確な情報が含まれていることもあるだろう。そのため、AIの回答を鵜

呑みにするのではなく、その内容を精査し、自分の知識や経験と照らし合わせて評価することが重要である。

さらに、「ジェネAI」を活用して新たな知見を生み出していく創造力も求められる。AIとの対話を通じて、これまで気づかなかった視点や発想を得ることができる。それをもとに、人間ならではの感性や経験を活かして、イノベーティブなアイデアを生み出していくことが期待されている。

「ジェネAI」の登場により、検索に時間をかけなくて済むようになり、知りたい内容がまとまった形で提示されるようになった。これにより、調べものに費やす時間が少なくなり、業務の効率化につながるだろう。また、AIの回答をきっかけに、さらに深掘りして調べることもできる。「ジェネAI」は、私たちの仕事や生活において、より便利で効率的な情報収集を可能にするツールとして、重要な役割を果たすようになると考えられる。